

# これからの幼児教育

これからの幼児教育

2011

夏

2011年5月20日発行 発行人 新井健一 編集人 徳澤美子 発行所 株式会社ベネッセホールディングス ベネッセ次世代育成研究所 ©Benesse Corporation 2011

表紙／裏表紙

千葉県 ● 柏市花の井保育園

『これからの幼児教育』発刊によせて

ベネッセは、日本の幼児教育・保育環境の充実を目指し、幼児教育・保育を担うかたに向けて、「保育の質」の向上に役立つ情報をお届けします。幅広い学問領域の研究や独自の調査データをもとに、先生がたの思いに寄り添いながら、よりよい子どもの育ちについてともに考えていきます。

お問い合わせ先

0120-933-964 通話料無料

受付時間 10:00～17:00(日曜・祝日は除く)

※番号をよくお確かめのうえ、おかけください。

※携帯電話・PHSからご利用できます。

※上記番号に接続できない通信機器・回線の場合は、

086-214-6337へおかけください(ただし通話料がかかります)。

第1  
特集

## 思いを伝える情報発信で 保護者と「つながる」園をつくる

インタビュー ● 大豆生田啓友 玉川大学教育学部准教授

第2  
特集

## 保育者がのびのび育つ 園の風土づくり8つのアイデア

データから見る幼児教育 保護者の子育ての実態

園運営や  
保護者への発信に  
ご活用ください

### 2 第1特集

## 思いを伝える情報発信で 保護者と「つながる」園をつくる

2 インタビュー  
エピソードとプロセスで園の「見える化」を  
玉川大学教育学部准教授 大豆生田啓友

6 事例1  
「園だよりやブログ」を使い分けて  
子どもの姿を伝え、安心感をはぐくむ  
パオパブ保育園ちいさな家 (東京都・私立)

8 事例2  
「保育参加」による育ちの共有で  
園への理解や信頼を深める  
花の井保育園 (千葉県・私立)

10 Q&A  
保護者との関係づくり こんなときはどうする?



### 12 データから見る幼児教育

## 保護者の子育ての実態

### 17 第2特集

## 保育者がのびのび育つ 園の風土づくり 8つのアイデア

18 インタビュー  
若手の保育者がのびのびと育つ  
温かい園の風土を根づかせるには  
聖心女子大学文学部教授 河邊貴子

20 温かい園の風土をはぐくむアイデア集

- ① 新任や若手の保育者が  
スムーズに溶け込むアイデア
- ② 園内コミュニケーションが  
活性化するアイデア



### 24 『これからの幼児教育』120%活用のヒント

少子高齢化、核家族化のさらなる進行、女性の社会進出、経済のグローバル化、ITによる情報化など、社会環境の変化が加速し、家族のあり方や親子関係を含めた子どもの育成環境に大きな変化が起きている。

ベネッセ次世代育成研究所は、子育て世代の生活視点を大切にしながら、妊娠出産、子育て、保育・幼児教育、子育て世代のワークライフバランスを研究領域として、家族と子どもが「よく生きる」ための学術的な調査研究と体系的な理念の構築を行います。

また、その調査研究成果を子育て世代を支える産科・小児科などの医療機関、保育・幼児教育の専門家のかたがたに発信し、よりよい子育て環境をつくる一助となることを目指します。

さらには、調査研究ネットワークを海外へも広げ、複眼的、学際的視点から日本の次世代育成を考えていきます。

ベネッセ  
次世代育成研究所  
とは

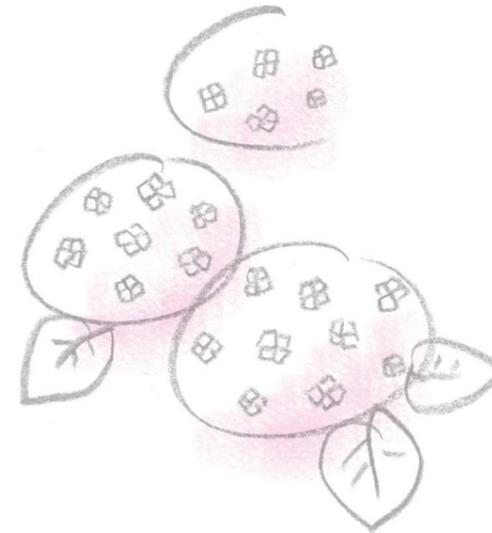


はじめに

東日本大震災被災者のみなさまに、心からお見舞い申し上げます。みなさまの安全と1日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

私たちは、今回の震災発生前から、保育者と保護者、そして保育者同士の「コミュニケーション」をテーマに、本誌の制作を進めてまいりました。震災発生後、園の先生方や幼児教育の専門家の方々にお話を伺う中で、このような状況だからこそ、園の内外での情報共有と連携がより重要になっていることを痛感しました。

園は、子どもたちにとって安心できて、笑顔でいられる場所です。そして、子どもたちの笑顔のまわりには、やはり笑顔の保護者と保育者がいます。どんなときでも、子どもたちの笑顔を中心にすべての保護者と保育者がしっかりとつながり続けられるよう、今回の誌面が少しでも参考になれば幸いです。



# 思いを伝える情報発信で 保護者と「つながる」園をつくる

園がどのような考えのもとで保育を行っているかを  
よりわかりやすく保護者に伝えることは、保護者の協力を得て保育を行い、  
園をよりよい場とするための有効な手段です。

## インタビュー

## エピソードとプロセスで、園の「見える化」を

保護者に対して積極的に情報を公開し、交流を深めているにもかかわらず、  
保護者対応の難しさを実感している園も少なくありません。保護者との関わりを考えるうえで、  
何がポイントになるのかを子育て支援に造詣が深い大豆生田先生にうかがいました。

## 難しくなってきた保護者とのコミュニケーション

### 子育てを取り巻く状況が 大きく変わったことが要因

近年、「保護者とのコミュニケーションが難しくなった」という保育者の声をよく耳にします。これは、  
マスコミで紹介されるような意思疎通が極端に難しい保護者が増えた  
ためなのではないでしょうか。私はもっと

社会的な、別の理由があると考えて  
います。

そもそも、子育てを取り巻く状況  
はこれまでと劇的に変わっています。核家族化で両親の育児の負担は  
大きくなり、さらに共働きの家庭が一般的になったことで、結果的に保護者の  
子育ての苦労は増えています。また、少子化の進行で、保護者



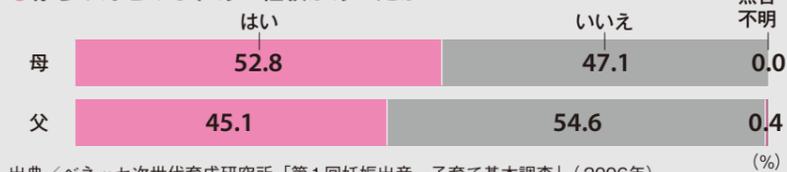
玉川大学教育学部  
乳幼児発達学科准教授  
大豆生田啓友

おおまめうだ・ひろとも  
専門は、幼児教育学・保育学・子育て支援。著書に、「これでスッキリ! 子育ての悩み解決100のメッセージ」(すばる舎)、「よくわかる子育て支援・家族援助論」(ミネルヴァ書房)など。

### 保護者の現状 赤ちゃんとふれあう経験がないまま親に

ベネッセ次世代育成研究所が行った調査では、「子どもの頃から今まで(第一子を妊娠/出産するまで)に赤ちゃんと身近に接したり、世話をした経験があった」という保護者は、母が52.8%、父が45.1%であった。母・父ともに約半数の人が赤ちゃんとふれあいの経験がないまま親になっている。

#### ●赤ちゃんとふれあひ経験があったか



出典/ベネッセ次世代育成研究所「第1回妊娠出産・子育て基本調査」(2006年)

の子育てのスタイルは「一児豪華主義」になり、わが子への期待は高まりがちです。その分、園に対する要望も多様で、大きなものとなっていく、それが叶わないと不満も高まります。

つまり、これまでは家庭や地域でなされていたことが十分に行われ

なくなり、さらに「保育のサービス化」という社会的な風潮によって、園に多くのことが求められるようになってきているのです。加えて、近所に子育ての悩みを打ち明けられる人がいないなど、保護者の孤立化も進んでいます。

園と保護者のコミュニケーション

ンが難しくなったのは事実だとしても、その原因を目の前の保護者にだけ求めるのは適切ではないと思うのです。むしろ、保護者が変わったというよりも、子育てを取り巻く社会全体が変化したのだと、私たちは認識すべきだと考えています。

## 園は、何をしているかわからない「ブラックボックス」!?

### 保育の「プロセス」を 保護者に伝える

このような中で、園と保護者が円滑にコミュニケーションしていくためのひとつの方法としては、園からの情報発信の仕方を見直す必要があるでしょう。

幼児教育の現場で働いていたひとりとして、私も以前は、保育者が一生懸命にやっていること、そしてその意図や情熱が保護者に必ずしもきちんと伝わっているとは限らないと感じることがよくありました。園として、またひとりの保育者として、保護者に情報を発信しているはずなのに、子どもの様子や保育者の考えが伝わっていないのはなぜでしょうか。

それは園からの情報が、どんな行事・活動を行っているかといったものが中心になっていて、子どもがどんなことを経験し、保育者がそれによってどのように働きかけ、そして子どもはどのように成長しているかなど、保護者が本当に知りたいことが十分に伝えられていないからではないでしょうか。園での出来事が表面的に

しか伝えられていないため、園で行われている保育の意味が保護者には実は見えていないのです。いわば、園が「ブラックボックス」になっていることが少なくない気がします(下の「私の失敗談」参照)。

園の保育の意味がわからないままだと、例えば運動会でも、保護者

の関心は練習を通じた成長のプロセスには向かわず、「うまく走れたか」「お遊戯ができたか」という結果にしか向かいません。保護者は、運動会を単なるイベントとしてしか理解できていないのですから、それは当然のことです。

しかし実際には、運動会本番まで

### 大豆生田先生が 振り返る 私の失敗談

#### 成長プロセスを保護者に語っていなかった

私が保育者として現場にいたときの話です。注意深く関わっていたある子どもが、園で昆虫をたくさん捕まえました。自分の方で遊びをつくることができたことがとてもうれしくて、私はお迎えにやってきた保護者に「こんなに虫を捕まえたんですよ!」と見せました。ところが保護者から返ってきた言葉は「え? それを家に持って帰らないといけないんですか?」という一言。

子どもがどんな気持ちで昆虫を捕まえたのか、保護者はなぜわからないんだと、そのとき私は怒りに震えました。でも、時間が経って振り返ってみると、実は悪いのは私だと気づいたのです。というのも、入園してから、その子自身がどんな状況で困っていて、それに対して私がどう関わってきたのか、保護者にしっかりお話ししていなかったからです。

私にとっては子どもの成長の証だったのに、保護者の目にはただの昆虫にしか映らなかったのです。それは、私の情報発信が不十分で、保育をブラックボックスにしていたからなのです。



に子どもたちは一生懸命練習し、友だちを助けたり、アイデアを出し合ったりしながら、実に豊かな時間を積み重ねてきています。このような運動会本番までのプロセスを園が保護者に伝えていなければ、保護者の関心はわが子の当日の出来不出来にしか向かいません。

保育者はどんな働きかけを行い、子どもたちがどんな成長を遂げてきたのか、そのプロセスをきちんと伝えていけば、同じ取り組みを見ても、保護者の意識は大きく違ってくはず。「今回の運動会の見どころ」などと題して、プログラムや園だよりなどで事前にお知らせするのもひとつの手段です。子どもたちがこだわって練習してきた点を写真やイラストなどを使って紹介

すれば、より保護者に伝わりやすくなるはず。

多くの園では今、さまざまな手段で情報発信を積極的に行っています。情報発信のツールの特性を生かしながら、プロセスをしっかりと伝えていきたいものです。

### 子どもの「エピソード」があって初めて納得できる

保護者とのコミュニケーションの際に、もうひとつ大切にしていたいただきたいのが、エピソードを盛り込むことです。

例えば、自分の子どもは友達づきあいもうまくできていないのではと心配している保護者に、保育者が「3歳児はひとり遊びや並行遊びが多いものです」と言ったとしま

ず。確かにそれは事実でしょう。でも、きっと保護者の心配はなくなりません。「そうはいつでも、ほかの子は友だちと遊んでいるではないか」と思ってしまうものなのです。たとえ正論であっても、一般論のまま述べては保育者の考えは保護者の心には届きません。

大切なのは、保育者だからわかる子どもの成長のエピソードが盛り込まれているか、そして、今後の見通しと保育者がどう関わろうとしているかを語っているかです。これらがあって初めて、保護者は自分の子どもをちゃんと見てもらっていると思うことができ、安心できるのです。

子どもの変化や成長など、日々のエピソードを交えながら、今後の見通しや自分の思いを語るのは、子どもを間近で見ている保育者だからできることです。「大丈夫ですよ」「元気ですよ」で片付けてしまっただけでは、保護者はかえって不安になってしまうかもしれません。保育者は当然だと思っていることでも、具体的なエピソードがあってこそ、保護者に伝わるのです。

プロセスとエピソードを大切にされた情報発信は、保護者が子どもをこれまで以上に理解することにも役立ちます。保育者は、園の遊びの中で子どもがどれほど成長しているか、さまざまなエピソードをもっていますから、それを保護者に伝えることで園への信頼感は高まりますし、家庭とは違う子どもの見方を知るでしょう。その結果、家庭での子どもへの接し方も変わってくるはず。

## 保護者を対等なパートナーとして見る

### 保護者が安心できる雰囲気をつくる

保護者とのコミュニケーションがうまくとれている園を見て感じるのは、「保護者を対等なパートナーとして見ている」ということです。

例えば園の行事への参加を募るときも、保護者一人ひとりの意向や個性を尊重し、保護者も行事を楽しむことができるように配慮しています。それぞれの保護者の事情や得意不得意を考慮せず、「親なんだからこれくらいやって当たり前」と、園の一方的な思い込みでつくられた行事は保護者には苦痛ですし、今後の参加には結びつきません。

子どもと同様、保護者の主体性や個性を尊重し、保護者一人ひとりも輝かせながら園と一緒に歩いていくという気持ちをもつことが大切なのではないのでしょうか。

また、子どもに対してそうであるように、保護者一人ひとりに対して肯定的なまなざしを向けることも必要でしょう。「毎日の仕事がいへんな中で、慣れない子育てをよくがんばっていますね」と寄り添うことも大切です。

園が「コミュニケーションが難しい」と思っている保護者は、保護者自身も園からよく思われていないかもと薄々気がついているものです。「自分はちゃんと子育てができていない」「園は自分にお説教したいはず」などと身構えて、園に対して関わりたくないと思っている傾

大豆生田先生が考える保護者との関係づくり4つのステップ

保護者との信頼関係が構築できていない段階で、「お子さんに朝ごはんをちゃんと食べさせてきてください！」などというと、保護者は心を閉じてしまいます。保護者との関係づくりは、この4つのステップで考えるとよいでしょう。

- 1 園や保育者が安心できる場や人であると感じられる雰囲気を作る
- 2 先生に気軽に話せる、話しかけられてもいいという信頼関係を構築する
- 3 原則的には保護者自身から悩みをもちかけてもらう。それが無理ならば、「最近どうですか？」と話しかけてみる
- 4 保護者から話を聞き、どう解決するかを一緒に考え、具体的なアプローチを行う

コミュニケーションがうまくできていないと感じるときは、1、2のステップがきちんとできているかどうかを確認してみましょう。

向があります。このような保護者に対しては、まず保護者が安心して園と話ができる雰囲気をつくっていただきたいと思います。コミュニケーションが難しいと感じる保護者にこそ、相手を身構えさせないよう、どうか明る

く、元気に、笑顔で声をかけてください。送迎時の声かけや、連絡帳でのコミュニケーションを通して、「応援していますよ」という保育者の思いをわかってもらうことが、保護者との関係の土台になるのです。

### 現場のみなさんへ

社会状況の変化から、今、園には多くのことが求められています。現場の保育者のみなさんのご苦労を想像すると、頭が下がる思いです。そんな中で保護者とのコミュニケーションを充実させていくのは、大変だと思われるかもしれません。しかし、家庭の存在を抜きにしてこれからの幼児教育は考えられません。幼児教育は、その成果がすぐには見えにくいものです。だからこそ、園で行われていることを「見える化」して、保護者の賛同と協力を得ていくことが大切だと思います。子どもの成長の様子をしっかりと伝えて、保護者とともに子どもを育てていく園であってほしいと思います。

### 園からの情報発信のねらい

#### ◎園の考えや保育者の思いを伝える

一人ひとりの保護者とじっくり話をする機会は意外に少ないものです。園全体の理念や方針、園長や保育者の考えを伝えることも必要です。

▶▶▶情報発信の手段の例→園だより、クラスだより

#### ◎保育の様子をよりイメージしやすく伝える

保護者が最も関心を寄せているのは、クラスの中で日々子どもたちはどのように過ごしているかです。子どもたちの表情や、保育者の関わりなどが具体的にイメージできるような情報発信が求められます。

▶▶▶情報発信の手段の例→園の掲示板、クラスだより、ホームページ、ブログ、写真掲示、ドキュメンテーション

#### ◎保育を体験することで保護者が子どもを理解する

保育者の子どもへの関わりかたや遊びの中での学びを知ることは、保護者にとって自分の子育てを見直すきっかけにもなります。保育の現場を見て、保護者にも実際に保育に参加してもらうことも、情報発信のひとつです。

▶▶▶情報発信の手段の例→保育参加、行事での保護者参加、サークル活動

#### ◎双方向のやりとりで、保護者と信頼を深める

子育ての経験が乏しく、周囲に相談ができる人も少ない保護者の疑問や不安は、日々変わっていきます。送迎時に子どもの1日の様子を伝えるだけでなく、保護者が疑問や不安を気軽に打ち明けられるツールも必要です。

▶▶▶情報発信の手段の例→連絡帳、個人面談、保護者のお茶会

事例 1

# 「園だよりやブログ」を使い分けて子どもの姿を伝え、安心感をはぐくむ

バオバブ保育園ちいさな家(東京都・私立)

第一子が多く、子育てに不慣れた保護者が多い「バオバブ保育園ちいさな家」。園だよりやブログなどを目的に応じて使い分け、子どもの姿や保育の様子を効果的に伝えることで、保護者との信頼関係の構築につなげています。

## 園生活を見えやすくする情報を発信し、保護者の不安を軽減

### 保護者が知りたい情報の提供が信頼関係をはぐくむ

0～2歳児を対象とするバオバブ保育園ちいさな家は、園だよりやブログなどを使い分けて保護者が知りたい情報の提供を心がけ、信頼関係の構築に努めています。園長の遠山洋一先生は次のように説明します。

「一般に園からの情報提供は、『保育や子育てはこうあるべき』『園はこう考えている』といった内容が多くなりがちです。しかし、保護者が何より知りたいのは、日中の子ども

の姿や保育者がどのような気持ちで子どもに接しているかなどです。それらを伝えることが、信頼関係の出発点と考えています」

園児は第一子が多く、子どもを預けることに不安を抱く保護者が少なくありません。特に送迎時に泣く子どもの保護者は、一日中、寂しがつているのではと心配する傾向があるといいます。

また園が当たり前と考えがちなのが理解されていないケースも多いため、ていねいな情報提供が必要だといいます。そこで、園だよりやブログ、保育参加などを目的に

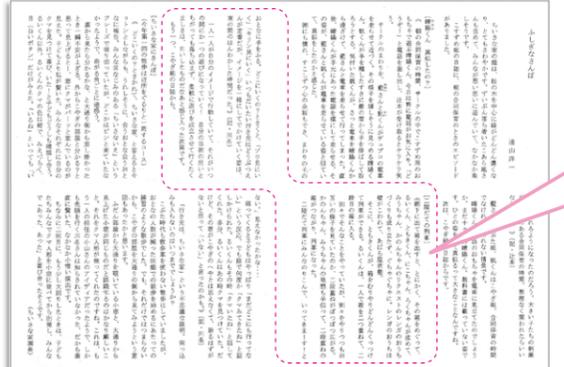


園長 遠山洋一先生

じて使い分け、保護者の不安の軽減に努めているのが、この園の特徴です。

### 保育日誌から引用したエピソードで保育の思いを伝える

中心となるのは、月1回、同じ



園だよりの構成は、その月の行事の予定、歌や体操の紹介、さらに園長のエッセイ、保育者の声や保護者からの一言など盛りだくさん。右は、「列車ごっこ」について書かれた遠山先生のエッセイ。

「二階だての列車」  
《廊下に出て箱を出すと、とにかく、その箱をめぐって、るいくん、ともきくん、にこちゃん、ろくちゃん、みうちゃん、かのんちゃん、みうちゃん、レンガのおうち壁がこわれて、あばら屋状態。》  
そこに、ともきくんが、箱をむりやりどんとくつつけて列車ができる。るいくんは、一人で箱を二つ重ねて、二段目の箱に入る。  
別々でそんなことをやっていたが、別々をやってもお互いの様子を見ていたのか、二段重ねがぼつぼつ広がる。かのんちゃん、みうちゃんの発想も手伝って、二段重ねの箱がとなり、列車になった。  
二階だて列車にみんなのりこんで、いつてきまーす！とおとなに手をふる。どこにいくの？とときくと、「ソウ見にくく」「キリン見にくく」いつもだいたい行き先はどろどろえんが定番だが、イメージを一掃にしておく。東の間のほんわかした時間だった。(記・川名)

一人一人が自分のイメージで行動していて、それがいつの間にか一つの遊びになっていく！自分の当初の思いとちがっても落ち込まず、柔軟に遊びを成立させて行くたくましさは、たいしたものだなあと感じ入った次第です。もう一つ、こやぎ組の日誌から。

法人が近隣で運営する園と合同で発行する8ページ構成の園だよりです。行事紹介では子どもの印象的な発言や姿などを詳しく伝えてほかに、保育者が保育への思いや日常生活で感じたことなどを書いてそれぞれの人となりを伝えるコーナーもあります。さらに、遠山先生のスペースを2ページ設けています。

遠山先生のスペースでは、保育者が記録する保育日誌をもとに、事前に保護者の了承を得たうえで子どもの実名も出し、エピソード主体のエッセイで子どもの様子を伝えています。

「保育日誌には、できごとや子どもの姿とともに、保育者の感想や気持ちを記入しています。現場の保育者のほうが子どもの実態をよく把握していますから保育日誌を参照し、子どものよさや成長を象徴するエピソードを選んで、解説や感想とともにお伝えしています。できるだけ実名を出すのは、そのほうが具体的に情景が伝わりやすいからです」(遠山先生)

毎月、熱心に読んでいる保護者も多く、子どもの発達についての理解などにもつながっています。

### ブログと保育参加を活用し園生活をより見えやすく

一方、パソコンや携帯電話で閲覧できるブログは、写真を中心にリアルタイムの情報提供を心がけています。何気ない遊びのワンシーンを掲載しており、「子どもが楽しそうに遊ぶ姿を見て安心する」と話す保護者もいるそうです。毎日更新して

いきたいところですが、現在は週1、2回の更新になっていると言います。

さらに普通の日の午前中、いつでも保育参加を受け付けています。子どもと遊んだり、給食を食べたり、園生活を共にすることで園に対する安心感や信頼感はより深まるといいます。

### 保育者はまず保護者を理解する努力を

保育者の中には、子育ての未経験者も少なからずいます。そこで遠山先生は保育者に対し、まずは保護者の話をじっくりと聞いて、仕事と子育てを両立させる大変さを理解する努力をするようにと、つねづね話しています。そうすることで保護者の不安や心配の原因がよく把握できて、どうすればそれらを軽減させ



写真を中心に子どもの姿を伝える情報を当日中に発信しています。ブログURL <http://chiisanaie.sblo.jp/>

られるだろうかと考えるようになります。その気持ちが、保護者との間に信頼関係をはぐくむ情報提供を支えているのです。

### 園の工夫 4つのポイント 目的に応じて発信の方法を使いわけ

- 園だより**……活字を通して、子どもの姿や成長の様子、保育者の思いや考えなどをじっくりと伝える。
- ブログ**……写真を中心に子どもたちの園生活の様子を伝える。最近の状況を発信できるため、保護者は安心感を抱きやすい。
- 保育参加**……実際に保育に参加して見てもらうことで、子どもの成長や保育の考え方などを感じ取ってもらう。
- クラスだより**……クラスごとに案内やお願いごとなどを伝える。クラスの様子と個々の子どもの様子を発信する役割もある。

**バオバブ保育園ちいさな家**  
 ◎2001年、京王線聖蹟桜ヶ丘駅前に開設。行事などは、同じ社会福祉法人が近隣で運営する「バオバブ保育園」(0～5歳児)と一緒に活動し、3歳になった子どもは「バオバブ保育園」に移ります。

園長 遠山洋一先生  
 所在地 〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮3丁目1番16号  
 園児数 31名(0～2歳児)



事例 2

# 「保育参加」による育ちの共有で 園への理解や信頼を深める

花の井保育園 (千葉県・私立)

子どもが遊びを通して育つ様子は、実際に見てもらうことで、より実感が伴うものです。花の井保育園では、保育参加を通して子どもの育ちを保護者と共有し、信頼関係を深めています。

## 共に保育に参加する中で、子どもは遊びを通して育つことを実感する

### 子どもが特に成長する秋に実施 保護者同士をつなぐ工夫も

「当然のことですが、最初、保護者は我が子にしか目が向きません。しかし、子どもたちと共に活動する中で、子どもは友だちとのかかわりあいを通して育つことを理解していきます。そのように自分の子どもを客観的に見る力は、きっと小学校以降の子育てにも生かされるはずです」

そう語るのは、鈴木美岐子園長です。

花の井保育園では、園だよりや送迎時の会話、行事などさまざまな場面で、保護者が子どもの育ちや保育への理解を深める機会をもってほしいと考えています。その一環として重視するのが、言葉では伝えにくい子どもの育ちを体感してもらえる保育参加です。

こうした方針の背景には、園が新興住宅地に位置することから核家族が多く、子育てを頼る人がまわりにはいないため、子どもの発達の見通しをもちにくいという課題があります。



花の井保育園の開園は2003年度ですが、前述のような背景の中、子どもとともに活動する方がより保護者の理解が深まると考え、2005年度から保育参加を実施しています。子どもが成長してくる11月に2週間の期間を設け、1日1クラスに2人程度の保護者に参加してもらいます。少人数にしているのは、あまり多くとふだと子どもの様子が変わってしまうためです。保護者間のネットワークをつくるために、あえて日頃は顔を合わせない保護者を一緒にすることもありますが、

### おもちゃのとりあいも子どもの育ちを理解するチャンスに

保育参加の日でも特別な活動は

しません。9時から16時まで、保護者は子どもといっしょに遊んだり、給食や午睡の準備をしたりして、日常的な園生活を体験します。保育者は、保護者に対してあまり指示をせず、できるだけ子どもたちとともに自由に活動してもらうことを大切にしています。そのうえで、チャンスがあれば子どもの育ちを理解する手助けをします。福島みゆき先生は次のように説明します。

「例えば、2歳児クラスで子ども同士がおもちゃの取り合いをするのを見た保護者は慌てて止めようとしていますが、少し待ってもらいます。そして、ちょっとした支援によって、子どもが自分たちで仲直りをしていっしょに遊べることを見てもらうと、その姿に感心して子どもの見方が変わります」

また、午睡の数時間を利用した保護者との会話は、とても貴重なコミュニケーションの機会となっています。堅苦しい面談ではなく、折り紙を折るなどの軽作業をしながら打ち解けた雰囲気の中で話すことがポイントです。この時間に子育ての悩みなどを保育者や他の保護者に打ち明ける方も多いいいます。

### 子どもの姿を見ることで 保護者の気持ちがとけていく

保育参加を初めて実施した2005年度の参加率は50%前後でしたが、近年は80%を超えています。保護者の間に「子どもの姿を見られるし、先生ともじっくり話せる」という評判が広がった影響が大きいといえます。

事後のアンケートは好意的な感想が大半を占め、園のねらい通り、子どもの姿に成長を見出して子どもの理解をより深め、感謝や喜びの声を寄せる保護者が少なくありません。

「子どもが蚊に刺されたり、小さな傷をつくったりするたびに、園に対して強く注意をする保護者がいました。保育参加のとき、その方は自分の子どもが土手で転げ回って遊ぶ姿を見て初めは心配そうでしたが、これがきっかけとなり、次第に『子どもが楽しそうならそれでいい』と温かく見守っていただけのようになりました」(福島先生)

子どもの育ちを共有することは、園への信頼感が確実に深まる効果もあるようです。

### 保育参加後の 保護者(3歳児)の感想

- 「昨年より、友だちとのケンカの仲直りが上手になっていて驚きました」
- 「集団の中で流れに合わせて遊べていることに感心しました」
- 「家とは違って、きちんと食事ができていることに驚きました」
- 「先生が子どもを上手に寝かせる様子を見て感心し、安心しました」
- 「先生の子どもへの声のかけ方などを見て、自分自身の子どもへの接し方を見直してみようと思いました」

### 園の工夫 4つのポイント 保育者にも保護者にも 無理なくできる保育参加の工夫

- 1 時期…子どもが成長し、園の生活も落ち着く11月に実施。大きな行事がなく、過ごしやすい気候であることも理由。
- 2 募集…事前にプリントを配布し、第3希望日までを提出してもらい、主任保育士が調整。
- 3 人数…1日1クラス2～3人。多過ぎると、子どもが落ち着かなくなるため。
- 4 活動…9時～16時に参加し、日常的な園生活を体感してもらう。特別な活動を用意しない分、保育者の負担も少なく済む。また、ケンカから仲直りまでの場面など、できるだけ遊びの中で育つ場面を見てもらえるように努める。

### 花の井保育園

◎2003年、柏市北部の住宅地に開園。園舎は木造平屋の開放的な造りが特徴です。周辺には緑豊かな公園や田んぼ、土手などがあり、子どもたちは自然豊かな環境の中で遊びのびと遊んで育ちます。

園長 鈴木美岐子先生  
所在地 〒277-0813 千葉県柏市大室1285-12  
園児数 定員90名 在籍107名(0～5歳児) ※2011年3月現在



### 保育参加中の様子



子どもを見る視野を広げてもらうため、できるだけ我が子以外の子どもにも接するように伝えています。



外から眺めるのではなく、散歩中も子どもと手をつなぐなど活動に入り込んでもらいます。

Q & A

# 保護者との関係づくり こんなときはどうする？

子どもと同様、保護者の個性もさまざまですから、中には関係づくりに苦慮することもあるものです。当研究所に寄せられた保護者に関する悩みの中でも特に多かったものについて、3名の先生がたにアドバイスをいただきました。

## 1 生活習慣ができていない

**Q** 早寝早起きの習慣がなく、朝食抜きの子供がいます。保護者には声をかけていますが、なかなか改善しません。どうしたら保護者としての自覚を持ってもらえるでしょうか。



**A1** 大豆生田先生  
保護者の事情を理解して共感する気持ちを

「親がルーズだからだろう」と頭ごなしに否定せず、まずはそれぞれの家庭の事情の中で子育てを頑張っているという気持ちを持つことが大事だと思います。「いつも頑張っていますね」といった一言で、保護者は「もう少し頑張ってみよう」と思えるものです。  
保護者は保護者なりに困り、努力していますから、相手の立場を思いやって共感することから始めてほしいと思います。そんなやりとりを続けるうちに、保護者は「なかなか早起きできなくて困っている」などと自分から悩みを打ち明けられるようになるかもしれませんし、保育者のアドバイスも素直に受け入れるようになっていくと思います。

**A2** 遠山先生  
お願いするときは理由をいっしょに伝える

単に「朝ごはんは必ず食べさせてください」と言うのではなく、どうしてそれが子どもの育ちにとって重要なのかを理解してもらうことが先決だと思います。このケースでいえば、午前中はみんなで遊ぶ時間帯なのに、お腹が空いていれば元気が出なくてつまらない思いをしてしまいます。そのように根本にある考え方を理解してもらうことで、「忙しいけれど何とかしてみよう」という気持ちが自然と強まるのではないのでしょうか。  
また保護者に「指導」するという気持ちを持たず、ともに子どもを育てる関係として協力をお願いするというスタンスが大切だと思います。

## 2 保護者自身が判断できない

**Q** 「子どもが園服を着てくれないのですが、どうしたらいいですか」など、細かい確認の連絡が多く、「自分で判断してほしい」と思ってしまう。こうした保護者にはどのように接したらよいでしょうか。



**A1** 大豆生田先生  
保護者間の関係づくりが育児の不安を軽減

育児について相談できる人が周囲に少ない保護者は、不安になりやすいものです。育児書を開いても、我が子にぴったりと当てはまる答えが書かれているとは限りません。保育者としては、保護者の悩みを受け入れ、可能な範囲で答えればよいと思います。  
ただ、1対1の関係の中で何でも質問される状況では、保育者に負担がかかってしまいます。その点、保護者同士の関係ができていれば、「そんなの大丈夫」「うちもそうだった」などと経験を語り合い、安心できるようになります。保護者同士で解決できることも多いのです。

**A2** 鈴木先生  
子育ての責任も自覚していただくことが大切

朝、保護者から子どもが38度の熱を出していると電話があり、お休みの連絡かと思ったら「休ませたほうがいいでしょうか？」と聞かれて驚いたことがあります。このように保護者の判断に任せたいことを確認されるケースが増えている背景には、「誰かに判断してほしい」「私の声を聞いてほしい」といった保護者の依存心があると感ずることがあります。例えば、「園服を着てくれない」という裏には、「子どもが言うことを聞かない」という心の叫びがあるのかもしれませんが。  
単に分からないときは、細かいことでも保育者は答えたいほうがよいでしょうが、過度に保育者に頼ろうとしている場合は、「子育ての一番の責任は家庭」と伝えていく必要があると思います。

回答者



玉川大学教育学部  
乳幼児発達学科  
准教授  
大豆生田啓友先生



バオバブ保育園  
ちいさな家  
園長  
遠山洋一先生



花の井保育園  
園長  
鈴木美岐子先生

## 3 特定の保育方法に傾倒してしまう

**Q** テレビなどの影響か、保護者から特定の保育方法を求められることが少なくありません。中には、園の活動を「遊んでいるだけ」ととらえている保護者もいます。どうすれば園の保育について理解してもらえるでしょうか。



**A1** 大豆生田先生  
遊びを通した学びの意味を地道に伝える

そういった保護者には、園の日常的な取り組みの意味がしっかり伝わっていないのかもしれませんが、だからこそ、テレビで紹介されるような刺激的な教育に飛びつきたくなるのでしょう。背景には、子育てなどいろいろなことへの不安があるのかもしれませんが。  
本来、幼児教育はゆっくりと成果が表れる地道なものです。園としては、遠回りに見えますが、自分たちが実践する教育・保育の意味を誠実に伝えることが大切です。園での遊びを通した学びは、すぐに成果が表れるものではありませんが、その後の人間的な成長の根っこを形成していくものであることを繰り返し発信していきましょう。

**A2** 鈴木先生  
専門職として必要性を精査すればいい

私の園では保護者会などを通し、園の理念や経営方針などを伝えていきます。「しっかりとした考え方を持っているな」と感じてもらえれば、こうしたケースはあまり起こらないと思います。  
それでも要望があったときは、否定せず、専門職の観点から子どもに必要なかどうかを精査します。そして必要と判断したら子どもの実態に合った形で導入を検討し、不必要ならば保護者に改めて園の理念や方針を伝えます。こうした要望を寄せてくださるのは、子どもの教育に関心をもっている証です。「言ってくださってありがとうございます」というスタンスで接すれば、保護者の気持ちを害することもないと思います。

## 4 保護者の心が不安定である

**Q** うつや育児ノイローゼなど、精神的に不安定な保護者への適切な対応について教えてください。



**A1** 遠山先生  
先入観をもたず、まずはゆっくりと話を聞く

最近「〇〇症候群」などと、いろいろな症例の名前がありますが、まずはそのような先入観にとらわれずに、ゆっくりと話を聞くことが大事だと思います。その保護者の事情や悩みを理解しアドバイスすることで、状態が改善することもあるでしょう。  
担任一人では対応が難しいと感じたら、一人で抱え込まず、ベテランの保育者などに相談してチームでかかわることが大切です。さらに、状況が園の力量を超える場合は、無理をせずに医療機関などの専門家と連携してチームで対応すべきだと思います。

**A2** 鈴木先生  
「ここは安心してよい場所」というメッセージを

ストレス社会にもまれながら子育てをする保護者のつらさを受け止め、じっくりと話を聞いて、「ここは安心してよい場所ですよ」というメッセージを送ることが大切だと思います。そのようなかわりに安心感を抱いて落ち着きを取り戻す保護者は少なくありません。  
しかし、そうした保護者への対応は時間も労力もかかります。保育者が一人で抱え込むと相当な負担になりますし、客観的に見られなくなるおそれもあります。職員間で情報を共有し、園全体でサポートしていく体制が不可欠といえるでしょう。

# 保護者の子育ての実態

ベネッセ次世代育成研究所は2006年の設立以来、乳幼児をもつ保護者の子育てについて、多角的、多面的な調査・研究を行っています。今回は、保護者についての特集にちなみ、複数の調査データから、子育ての実態や意識の現状をご紹介します。保護者支援の参考として、また、保護者会のお話のひとつとしてご活用ください。

**引用・転載時のお願い** 本調査の結果を引用される際には、該当のデータの調査名称を記載してください（例：ベネッセ次世代育成研究所『首都圏・地方市部ごとにみる乳幼児の子育てレポート（2010）』）。

## 遊び相手は「母親」が増加し、「友だち」が減少

**Q** 平日、（幼稚園・保育園以外で）遊ぶ時は誰と一緒にいることが多いですか。



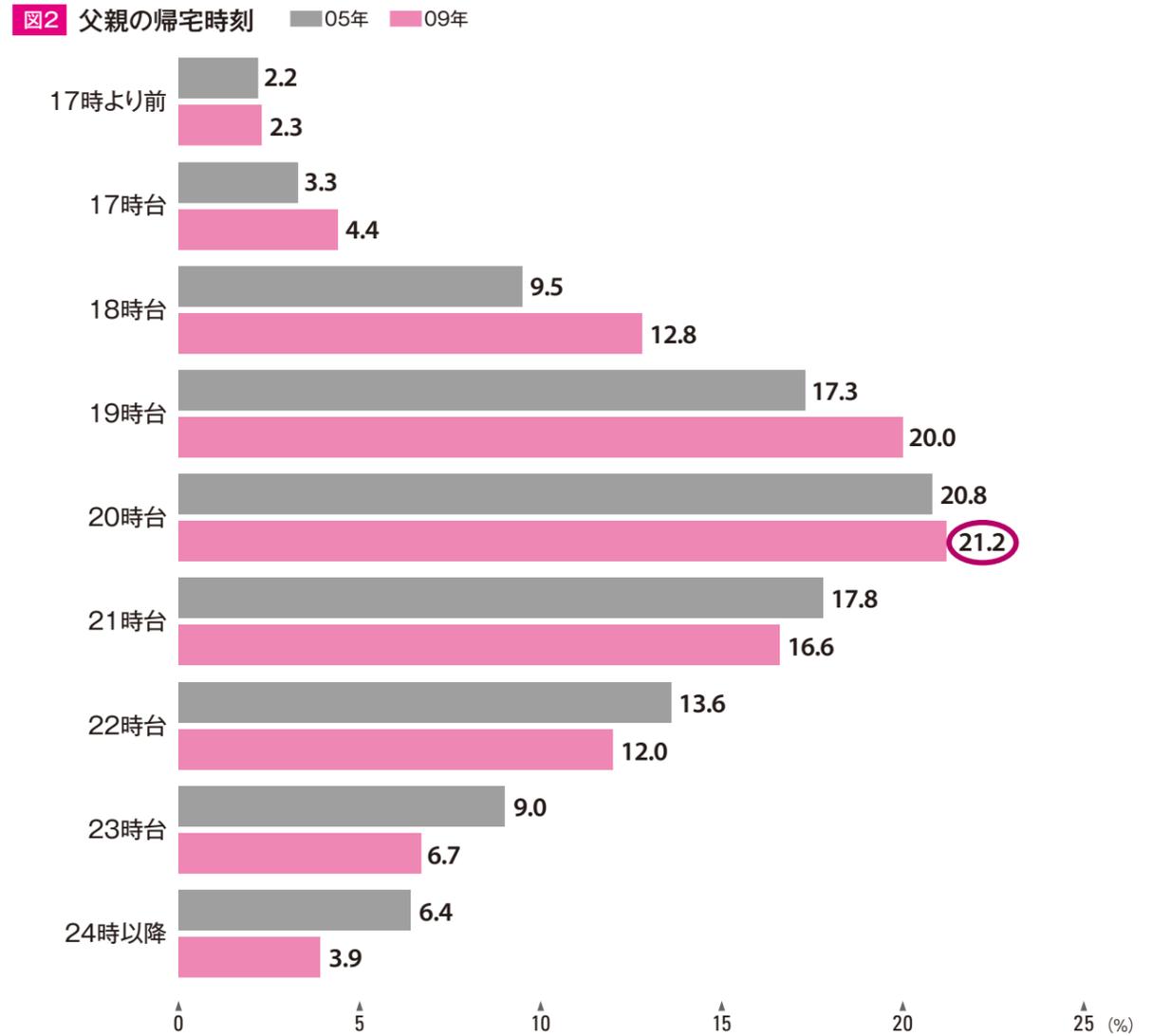
★幼稚園・保育園以外で平日と一緒に遊ぶ人について聞いたところ、この15年で「母親」が増加する一方、「友だち」は減少していました。特に「友だち」は5年前から7.5ポイント減少しており、友だちと遊ぶ機会が減っていることがわかります。背景には少子化の影響や園に滞在する時間が長くなっていることが考えられるでしょう。

出典：ベネッセ次世代育成研究所「**幼児の生活アンケート**」  
 調査テーマ：乳幼児の生活の様子、保護者の子育てに関する意識と実態  
 調査対象・地域：  
 〈第1回調査（1995年調査）〉首都圏の1歳6か月～6歳就学前の幼児をもつ保護者 1,692名  
 〈第2回調査（2000年調査）〉首都圏、および地方都市の1歳6か月～6歳就学前の幼児をもつ保護者 3,270名  
 ＊経年での比較を行うために、地方都市の回答を分析から除外している

〈第3回調査（2005年調査）〉首都圏の0歳6か月～6歳就学前の乳幼児をもつ保護者 2,980名  
 〈第4回調査（2010年調査）〉首都圏の0歳6か月～6歳就学前の乳幼児をもつ保護者 3,522名  
 ＊経年での比較を行うために、第3回および第4回調査の0歳6か月～1歳5か月の回答を分析から除外している  
 調査方法：郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）  
 調査時期：第1回調査 1995年2月／第2回調査 2000年2月／第3回調査 2005年3月／第4回調査 2010年3月

## 父親の帰宅時刻は「20時」台が最も多い

**Q** 平均して何時ごろ仕事から帰宅することが多いですか



★父親の帰宅時刻として最も多かったのは「20時台」、次いで「19時台」「21時台」でした。05年の調査と比較すると09年の帰宅時刻のほうが全体に早い傾向にあります。一方で、21時以降に帰宅する父親は全体の約4割ということもわかりました。父親の帰宅時刻が遅いため、平日、子どもと過ごす時間が少なくなっているようです。

出典：ベネッセ次世代育成研究所「**乳幼児の父親についての調査**」  
 調査テーマ：乳幼児の父親について、子どもや妻との関係、家事・育児への関わり、仕事と家庭のバランス、子育て観や将来への期待  
 調査対象・地域：  
 〈第1回調査（2005年調査）〉首都圏の0歳～6歳就学前の乳幼児をもつ父親 2,956名  
 〈第2回調査（2009年調査）〉首都圏の0歳～6歳就学前の乳

児をもつ父親 4,574名  
 調査時期：第1回調査 2005年8月 第2回調査 2009年8月  
 調査方法：インターネット調査

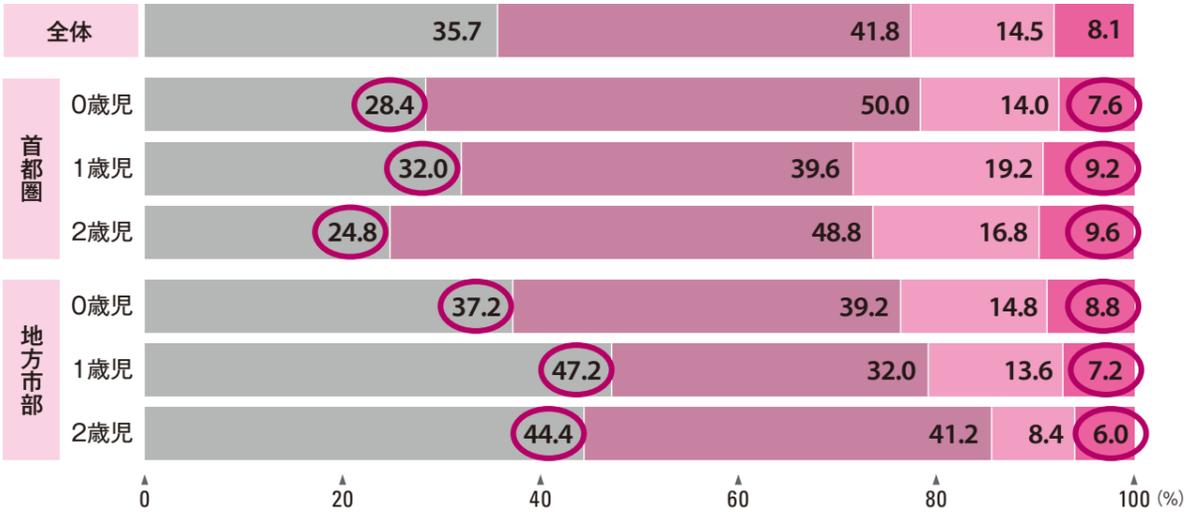
# 祖父母の手助けは地方市部のほうが厚い

**Q** お子さまの祖父母からの手助け状況に最も近いのはどれですか。父方か母方かは区別せずに、どちらの祖父母からの手助けも合算してお答えください。

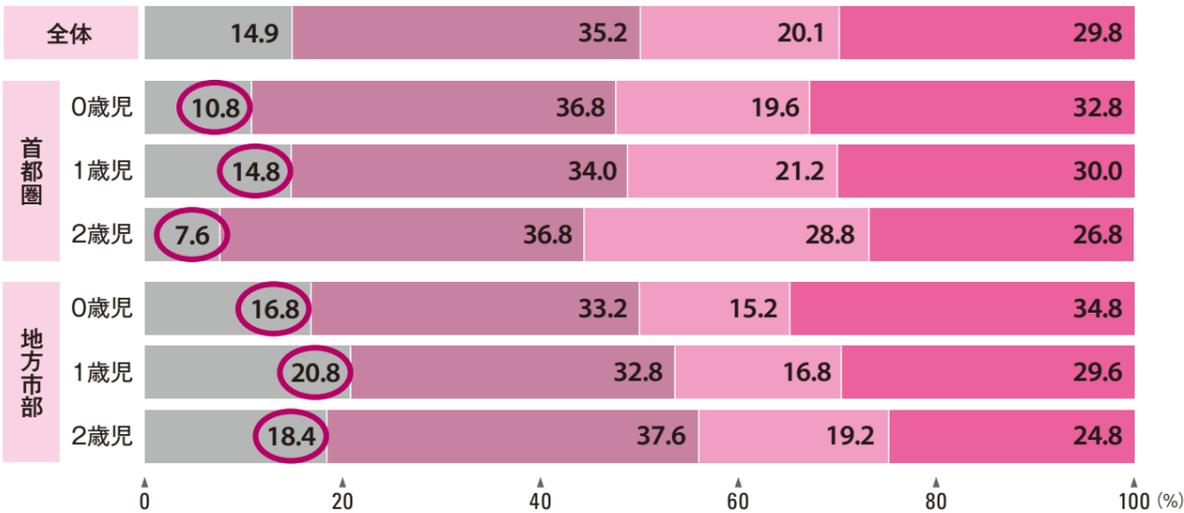
**図3** 祖父母からのサポート

■ 日常的に ■ たまに ■ ごくたまに ■ まったくない

■ お子さまと遊んでもらう



■ お子さまを預かってもらう



注1: 「ほとんど毎日+週に1~2回程度」を「日常的に」、「月に1~2回程度+3か月に1回程度」を「たまに」、「半年に1回程度+年に1回程度」を「ごくたまに」に置き換えて図示した。注2: 対象は0~2歳児をもつ母親

★祖父母からの手助けについて、年齢・地域別でみると、「お子さまと遊んでもらう」について、「まったく」と回答した比率に地域差はほとんど見られませんでした。一方、「お子さまと遊んでもらう」、「お子さまを預かってもらう」のいずれも、「日常的に」と回

答した比率は、どの年齢においても地方市部のほうが高く、祖父母からの日常的な手助けは地方市部のほうが多いと言えるでしょう。

出典: ベネッセ次世代育成研究所「首都圏・地方市部ごとにみる乳幼児の子育てレポート」(図3・4ともに)

調査テーマ: 0~2歳児とその母親の生活の様子、子育て支援の状況

調査対象: 0~2歳児をもつ母親1,500名

調査地域: 首都圏: 東京駅から40km圏内の市区町村/地方市部:

東京駅から40km圏、大阪駅から30km圏、名古屋駅から20km圏を除く中核市、特例市、人口120万人以下の政令指定都市

調査時期: 2010年9月25日、26日

調査方法: インターネット調査

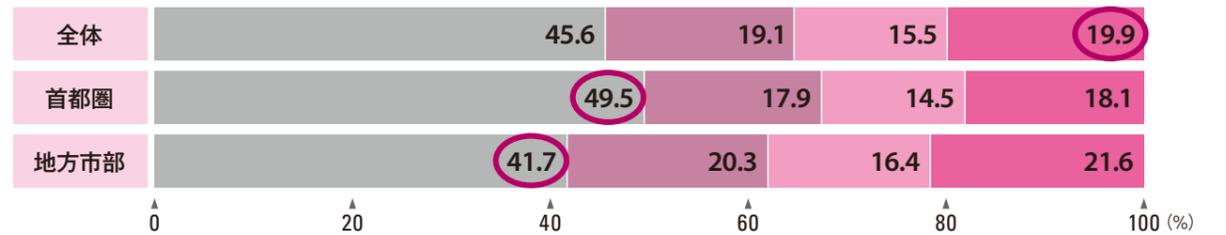
# 約5人に1人の母親は地域で声をかけてくれる人がいない

**Q** 地域の中で、子どもを通じたお付き合いの状況にもっとも近いのはどれですか。

**図4** 地域の中で子どもを通じたお付き合いの状況

■ 3人以上いる ■ 2人くらいいる ■ 1人はいる ■ 1人もいない

■ お子さまのことを気にかけて、声をかけてくれる人



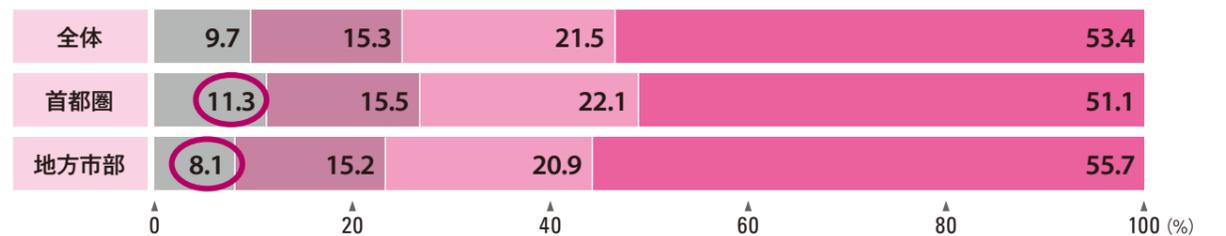
■ お子さま同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人



■ 子育ての悩みを相談できる人



■ お子さまを預けられる人



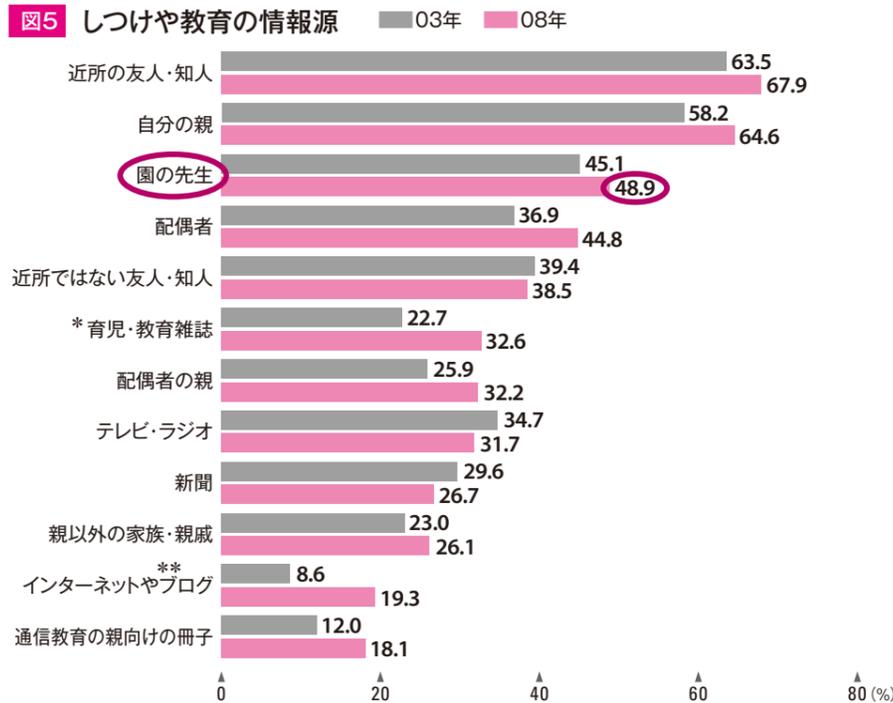
注1: 対象は0~2歳児をもつ母親

★ここでは、地域の中で子どもを通じたお付き合いについて聞いています。全体で「1人もいない」と回答した比率をみると、「お子さまのことを気にかけて声をかけてくれる人」、「お子さま同士を遊ばせながら立ち話をする程度の人」、「子育ての悩みを相談できる人」がいずれも20%前後でした。約5人に1人の母親が子どものことを気にかけて、声をかけてくれる人が地域に1人

もいない状況で子育てをしていることがわかります。地域別でみると、いずれの項目も「3人以上いる」と回答した比率は首都圏よりも地方市部の方が低く、地域の中で子どもを通じた付き合いが少ない傾向がみられます。孤独な子育てから母親を救うために、地域の人との交流の拠点として園の存在がますます重要になるでしょう。

## しつけや教育の情報源は「園の先生」が約半数

Q お子様の「しつけや教育」についての情報をどこから(誰から)得ていますか。



★子どものしつけや教育についての情報をどこから得ているかを複数回答で選択してもらった結果、「近所の友人・知人」「自分の親」に続き、「園の先生」が上位に並びました。また、上位4つまでは、03年に比べてすべて増加していて、情報収集への熱心が表れています。

注1:複数回答  
注2:その他を含む21項目のうち、12項目を図示  
注3:\*は03年調査では「育児雑誌」  
注4:\*\*は03年調査では「インターネット」  
注5:対象は3~5歳児をもつ保護者

出典:ベネッセ教育研究開発センター「子育て生活基本調査(幼児版)」

調査テーマ:幼稚園・保育園をもつ家庭での子育ての実態、およびしつけや教育に関する保護者の意識

調査対象・地域:

(第2回調査(2003年調査)) 首都圏、地方都市、郡部の幼稚園・保育園をもつ保護者 4,471名

※このうち、分析は首都圏の母親(3,477名)のデータを用いた。

(第3回調査(2008年調査)) 首都圏、地方都市、地方郡部の

幼稚園・保育園をもつ保護者 6,131名(配布数 8,238通、回収率 74.4%)

※このうち、分析は首都圏の母親(3,069名)を中心に行った。

調査時期:第2回調査 2003年9月~10月/第3回調査 2008年9月~10月

調査方法:幼稚園・保育園通しによる家庭での自記式質問紙調査

### 調査データからわかること

#### 育児の状況を踏まえて家庭支援を



東京福祉大学  
社会福祉学部  
保育児童学科 准教授  
**荒牧美佐子**  
専門◎発達心理学、  
育児感情、子育て支援

データを見て感じることは、「育児の孤立化」と「地域のつながりの弱さ」です。その結果、育児において父親や祖父母はもちろん、園の役割も大きくなっていることがわかります。園への期待が高まっている背景には、園の先生は専門家でありながらサポートを受ける心理的ハードルが低く、母親が相談しやすいということがあるのでしょう。

ですから、園の先生は子どもの支援だけでなく、保護者を含めた「家庭」全体のサポートが重要になります。保護者がどのような環境で子育てしているかを会話の中で把握するなどして、安心して相談できる関係性を作りましょう。そのような保護者の支援が子どもへの成長支援にもつながっていきます。

調査報告書をご希望の場合

ベネッセ次世代育成研究所では、乳幼児をもつ保護者のさまざまな子育て意識や実態に関する調査を行っております。調査速報版報告書のデータは、ベネッセ次世代育成研究所と、ベネッセ教育研究開発センターのホームページでご覧いただけます。

<http://www.benesse.co.jp/jisedaikin/>

<http://benesse.jp/berd/>

若手保育者の声

先輩に、自分の保育のよいところ、あらためるべきところをはっきりと指摘されると、かえって**自信がもてます**

あなたはここがよいところね!と**具体的にほめてもらう**と次もがんばろうと思えます

第2特集

保育者がのびのび育つ

# 園の風土づくり 8つのアイディア

大きな夢と情熱をもってこの仕事を選んだ

若い保育者を育てていくことは、次代の園の土台作りで

あるといえるでしょう。新年度がスタートして1か月余り。

若い力がその輝きを保ったまま、先輩保育者の中で豊かな経験を積み重ねていけるような園の風土づくりについて考えます。

保育に対する考えが違ったときも、私の考えを**尊重した上で**、園としての方向性を話そうとしてくれるので、気後れすることなく意見が言えます

なにか疑問があったときに、自分の中で抱え込まず、**すぐに話し合える**今の環境が大好きです

私も悩んでいると先輩が正直に言ってくれることで、**仲間意識や連帯感**を感じられます

# 若手の保育者がのびのびと育つ 温かい園の風土を根づかせるには

若い保育者の育成は、幼稚園と保育所の共通の課題となっています。希望や目標をもって保育の道を選んだ若い世代の向上心を支え、成長を促していくには、どのような園の環境が望まれるのでしょうか。聖心女子大学の河邊貴子先生にお話をうかがいました。

## 揺るぎない理念に基づく、風通しのよい人間関係を

### 若手のよさを認めて 向上心を引き出せる風土を

近年、若い保育者の離職率の高さが、多くの園の課題となっています。保育者という職業は、子どもの頃から憧れて就く人が多いものですが、どうしてすぐに辞めてしまうのでしょうか。

若手の退職理由として多いのが、職場の人間関係の悩みや体力的な問題です。しかし、若手ならではのこうした悩みは、今も昔も大きく変わりません。そう考えると、園側の変化にも目を向ける必要があるでしょう。

最近、新人がミスをしないうように、事前に本人が考える余地のないほど細かく指導する園が増えていくようです。背景には、昔に比べて園に対する保護者の要求が強まっていることもあるのでしょうか。しかし、自分で考える余地を残しておかないと、次第に試行錯誤をやめて成長が止まりますし、目的を見失って心が疲れてしまいます。

細かく指導したくなる気持ちは理解できますが、若手ならではの一生懸命さや元気が園の雰囲気によい影響をもたらしていることを見逃してはいけません。そのようなよさを認めつつ、本人が自分から



河邊貴子

かわべ・たかこ  
聖心女子大学文学部教授。東京都公立幼稚園で12年間教諭として幼児教育に携わった経験をもつ。2008年改訂の幼稚園教育要領解説作成協力者、中央教育審議会専門委員（初等中等教育分科会）などを歴任。著書に『子どもごころ—幼児が生きている豊かな時間』（春秋社）など。

「変わりたい」「伸びたい」という気持ちになるような温かい「風土」をつくるのが何より重要でしょう。

### 子どもを軸とした理念の共有で コミュニケーションを活性化

風土とは、土（地面）があり、そこに風がそよいでいるイメージの言葉だと思います。園にとっての「土」は保育の理念、「風」は人間関係の風通しと言えるでしょう。

園長が発信する理念が揺るぎないものとして共有されていれば、保育者の間に同じ方向を向いて力を合わせようという感情的なまとまりが生まれます。理念を改めて説明

する機会は少ないものですが、行事などでねらいを強調して伝えたり、園長等が保育をする姿を見せたりして、繰り返し感じ取ってもらえるように努めてください。理念が共有されていなければ、どれだけ人間関係がよくても、それは「仲良しグループ」に過ぎません。若い保育者も理念を十分に理解すれば、先輩の保育のねらいを察したり、厳しい指導を受けても納得して耳を傾けたりするようになるはずですよ。

保育の理念は、「すべては子どものために」といった子どもを見つめたものであるべきだと、私は思います。こうした理念が十分に浸透すれば、園内に子どもを軸としたコミュニケーションが生まれやすくなるでしょう。職員室で自然と子どもの話が始まるような雰囲気が理想的ですが、なかなかそうならないときは、園長のちょっとしたサポートが必要です。

園長が子どもの名前を出して印象的だった保育の場面について話したり、がんばっている保育者の話を聞いたりすれば、保育者間の会話のきっかけになるでしょう。

協同作業の場を設けるのもよい方法です。以前、私が勤めていた園では、子どもが帰った後、同じ年齢を担当する保育者が集まって保育室を掃除しました。3クラスの場合は、3人が一緒に3部屋を掃除して回るのです。すると、「このあたりで遊んでいた子どもたちが楽しそうだった」「この掲示物はおもしろい」などと、子どもや保育の話が自然と出てきます。面と向かって話すときに比べ、作業をしていると気軽

に話せますし、そういうときの方が、構えていない分、指導を素直に受け止められるものです。協同作業は、草むしりや花壇整備、教材室の整理など何でもよいと思います。

### 若手の成長レベルを捉えて 視点を広げるアドバイスを

若手の保育者の指導時には、本人が直面する課題を意識してあげてください。誰でも最初は目の前の子どもの対応でいっぱいですが、経験を積むうちにまわりの子どもが見え始めます。「木」から「林」に目が向くようになったわけです。さらに成長すると林と林の関係に気を配れるようになり、やがて「森」、すなわちクラス全体を視野に入れて保育ができるようになります。若い保育者に初めからきっちり「森」を見るように求めても難しいです。その保育者は何が見えており、何ができないレベルかを園長が把握していれば、「その子どものまわりはどうなっているかをよく見てごらんください」などと、視点を広げるアドバイスができます。

誰でも経験の浅いうちは不安を抱え、自信がないものです。小さなことでもほめて認めれば、大きな支えになるでしょう。落ち込んでいるときには、子どもの良さや保育の楽しさなどを思い出し、原点に帰るよう促すとよいと思います。

そして、先輩が向上心を抱いていることも、若手が伸びる条件です。みんなが学び合って伸びようとする、そんな温かい風土のある園を目指していただきたいと思います。

### 保育者から見た 園の風土 体験談

#### 園長の保育観がわかり 保育者が一つにまとまった

◎園長が保育観をしっかりと伝えている園は、保育者が一つになり、また自分の成長も感じることができます。私も若手のころ、園長が「一人ひとりが自信のあるものを発揮し、足りない部分は互いに補い合えばいい」と話してくださったことで、ほっとしましたし、みんなと協力しようという気持ちが強くなりました。（公立保育園・25年目）



#### 「園長が守ってくれる」 安心感の中で私は育ちました

◎新任の時、園長から「思うとおりにはやってみなさい。責任は私がとるから」といっていただきました。その言葉のおかげで主体性が生まれ、失敗や成功がその後の糧になった気がします。また、悩みをじっくりと聞いてくださり、「一緒に考えてみましょう」と時間を惜しまず話し合ってくれた先輩方にも育てられました。（国立幼稚園・23年目）



# 新任や若手の保育者がスムーズに溶け込むアイデア

新任や若手、また異動してきた保育者がすぐにコミュニケーションの輪に入り、のびのびと働ける環境にするためのアイデアを、園長を経験した先生や現役の園長先生にうかがいました。

## アイデア1 休憩室やロッカー室の環境を工夫して、くつろげる空間に



**背景** 休憩室やロッカー室は、保育者がリラックスできる場所。特に緊張が絶えない若い保育者にとっては、唯一、肩の力が抜ける空間ですから、コミュニケーションを深める場所としては最適です。

**アイデア** クッションや座布団を置くなどしてよりくつろげる環境を用意すれば、休憩時間や勤務時間外などに保育者の間に会話が生まれやすくなります。お茶やお菓子があれば会話はいっそう弾みますから、小さな冷蔵庫や電子レンジなどを設置してもよいかもしれません。室内の飾りつけは、インテリア関係が好きな若い保育者に任せてみるのもいいでしょう。施設的な事情もありますが、休憩室やロッカー室は保育室などとは空間を隔てて設置することで、仕事から離れられてリラックスしやすくなります。

**効果** 若い保育者にとって、先輩との自然な会話の中で子どものエピソードなどを聞く経験は視野が広がるきっかけになりますし、悩みがあるときは自分から相談しやすくなるでしょう。ただし、疲れているときに休める場所も必要です。休憩時間が逆にストレスにならないよう、気をつけましょう。

(元公立幼保一体施設長の提案)

## アイデア3 園長先生や同僚と若手保育者が自由に交流する場を設ける



**背景** 新任の保育者は悩みや不安が尽きないものです。そんなときに何より心の支えとなるのが共感し、励まして助言を与えてくれる園長先生の存在や、同じ境遇でがんばる同僚と悩みを分かち合うことではないでしょうか。

**アイデア** 新任や異動によって新しく入ってきた保育者とコミュニケーションする場を園内に設けましょう。サロンのような明るく、自由な雰囲気が大切です。個別の仕事の状況、悩みや大変なこと、また印象的だった保育の場面などを話せるようにします。また保育者同士で健康管理やストレス解消法などの情報を交換することで、ワークライフバランスの向上が図れて意欲も高まります。

**効果** 園長先生や同僚に自分の状況を話し、コミュニケーションを深めることが悩みや不安の軽減につながります。園長先生にとっては、園としての理念などを伝えるよい機会になるでしょう。また困ったときは互いに助け合ってよいことを強調して伝えていけば、若い保育者がひとりでの悩みを抱え込んでしまうことが少なくなります。

(公立幼保一体施設長の提案)

## アイデア2 年度の初めに、保育者全員で教材室や物置の整理をする



**背景** 新しく入ってきた保育者が困ることのひとつが、教材などの置き場所がわからないことです。遠慮してなかなか聞けなかったり、自分で探したりするうちに余計な時間を費やしてしまうことも少なくありません。

**アイデア** 年度の初め、保育者全員が参加して教材室や物置などを整理してはどうでしょうか。同様のねらいをもつ取り組みとして、月1回、全員で園舎や園庭を歩いて安全点検をすることもひとつの案です。

**効果** 園内が片付いて仕事がスムーズになるのはもちろん、新任の保育者は園に備わっている教材をひと通り確認し、保育のイメージを膨らませることができるようでしょう。作業中に自然と教材についての会話になり、保育内容や行事などについて共通の理解が図れるよさもあります。また体を動かして協同作業をすることで、みんなの心がほぐれて人間関係が円滑になる効果も期待できるでしょう。

(元公立幼稚園園長の提案)

## アイデア4 重要な役割を徐々に任せて、若い保育者に自信をつけていく



**背景** 新任の保育者は目の前の子どもに対応するだけで手一杯です。初めから重要な園の役割を与えると過度な負担がかかり、精神的に追い込んでしまいかねません。かといって、活躍の場がまったくなければ、園の中での存在感ややりがいを感じられないことにも留意する必要があります。

**アイデア** 初めは負担が小さく、失敗をする可能性が少ない役割から任せるとよいでしょう。例えば、音楽が得意なら誕生会のピアノ当番、コンピューターに強いならパソコン関係の管理などが考えられます。行事では前面に出る役割ではなく、下準備などを中心にするともよいでしょう。

**効果** 「園のために役立った」という喜びは自信につながり、次第に自分のよさを発揮できるようになります。そして翌年度以降、徐々に重要な役割を任せるようにすれば、負担感を抑えながら成長を促すことができます。

(私立認定こども園長の提案)

# 園内コミュニケーションが活性化するアイデア

園内に温かい雰囲気を生み出すために、保育者同士、また園長と保育者間のコミュニケーションを活性化させましょう。ちょっとした工夫によって、保育者同士が学び合い、助け合う関係が生まれるものです。

## アイデア5 職員の誕生日会など、親睦を深めるイベントを恒例にする



**背景** 子どもの誕生日や季節の行事などイベント企画が得意な保育者は多いです。

**アイデア** その腕を保育者同士の親睦に生かしてはいかがでしょうか。毎月、保育者の誕生日会を開催し、お祝いの言葉とともに歌やケーキを楽しめば園内に温かい空気が生まれます。ほかにも、保育者の歓送迎会、クリスマスパーティー、忘年会などでも親睦を深められますし、大きな行事のあとに慰労会を開催するのもよいアイデアです。忙しくてあまり時間が取れないという園もあるでしょうが、特にイベント企画が得意な保育者に親睦会担当者として企画に集中してもらうなどして省力化を図りましょう。

**効果** 「園全体が自分のことを大切に思ってくれている」という思いは、保育者同士の結束を強めますし、「明日からまたがんばろう」という気持ちにもつながるでしょう。園外での会食を開催すれば、ふだんとは異なる会話が広がるかもしれません。

(私立認定こども園長の提案)

## アイデア7 行事の担当などは、得意な人同士のチームをつかって分担する



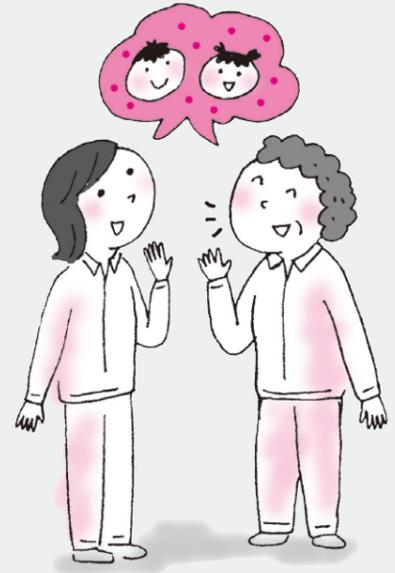
**背景** 保育者間のコミュニケーションを活性化させる基本は、業務上の連携を密にすることです。

**アイデア** 年間の行事の役割分担は、園長が決めていくのではなく、それぞれの保育者が得意なことを生かせるよう、基本的には自主的に決めてもらうようにします。例えば、スポーツが得意な人は運動会、ピアノや工作が得意な人はお楽しみ会といった具合です。その行事に関連することが得意な人たち3、4名がチームとなって連絡を密にしながら取り組むことで、それぞれの行事への参加も自主的なものになっていくはず。同時に、仲間意識も醸成されていくでしょう。

**効果** チームでの保育を円滑にすることで業務の効率化が図れるうえに、園内にまとまりを生み出せます。また、保育者が自信をもって取り組めるので、行事そのものの内容もより充実するでしょう。このように保育者が協同するしぐまを整えるとともに、ふだんから困ったときには互いに助け合う関係を作っていくと園長先生が強調して伝えることで、保育者間の連携はより深まるでしょう。

(元公立幼稚園園長の提案)

## アイデア6 1日1回、保育者に声をかける「1分間マネージメント」



**背景** 園長先生がすべての日案や週案に細かく目を通してコメントを返すのは、時間的に難しいかもしれません。しかし、保育者に「園長先生はいつも自分を気にしてくれている」という安心感を与えることは信頼関係の礎となります。

**アイデア** 1日1回はすべての保育者に声をかけ、短時間でメッセージをおくる「1分間マネージメント」を実践してみたいかがでしょうか。その日の保育の予定や子どもの様子を聞くとともに、顔色などから健康状態をチェックして気になるようなら声をかけましょう。またそれぞれの保育者が担当する子どもの姿や保護者の声などで気づいたことを伝えましょう。保育の参考になりますし、園長先生としての保育に対する考え方も伝えることができます。

**効果** こうしたマネージメントを続けるうちに、それぞれの保育者の仕事の状況や悩みなどが手に取るようにわかるようになります。さらに年2、3回ほど、ひとりの保育者につき15分くらいのヒアリングをすれば、ふだんよりも深い話を聞き出すことができ信頼関係の構築につながります。

(公立幼保一体施設長の提案)

## アイデア8 園長が、壁面の装飾や子どもの作品展示を手伝う



**背景** ふだん、園長は個々の保育者に具体的な指導をする機会はいくつかありません。しかし、手伝いを通して実践指導やコミュニケーションの機会にすることができます。

**アイデア** 保育者が壁面の装飾や子どもの作品展示などを行っているのを見かけたら、園長先生が手伝ってみてはどうでしょうか。その際、装飾や展示に関わるアイデアを伝えるようにします。

**効果** こうしたきっかけがあれば、実践を通じた指導となり、園長先生の保育に対する考え方なども伝えられるでしょう。さらに面談のようにかしこまった場面よりも、作業をしながらの方が話しやすいというよさもあります。コミュニケーションが深まるにつれて、ふだんは聞けなかった保育者の本音や悩みなどが出てくるかもしれません。保育者にしてみれば「助かった」という気持ちになりますし、「園長先生が自分を気にかけてくれている」という安心感や心強さも芽生えるでしょう。こうした一つひとつのサポートの積み重ねから信頼関係が生まれ、保育者は次第に心を開いていくものです。

(元公立幼稚園園長の提案)

# 120%活用のヒント

年3回お届けしている『これからの幼児教育』。園運営や保育の質の向上に少しでもお役立ていただければと願っております。そこで今回は、編集部より本号の活用のご提案と、全国の幼稚園・保育所の園長先生から寄せられた前号（特集：園での学びの芽生え）の読者ハガキの声から一部をご紹介します。

## こんな使い方はいかがでしょうか？

園長先生が最後まで目を通して、全体を把握する

### 保育者への情報発信に活用

- 例えば、
- 保育者に回覧する。
  - 必要部分をコピーして、保育者に配布する。
  - 必要部分をコピーして配布し、職員会議や園内研修で話し合う。

**さらに!** 園長先生が、保育者に特に伝えたい点や考えてほしい箇所に線を引いたり、コメントを書き添えればより効果的!

### 保護者への情報発信に活用

- 例えば、
- 園だよりで紹介する。  
※出典をご記入ください。  
例) 出典:ベネッセ次世代育成研究所『これからの幼児教育 2011 夏号』
  - 必要部分をコピーして、保護者会で配布する。
  - 必要部分をコピーして配布し、保護者会で話し合う。

**さらに!** 園長先生が、保護者に伝えたい点や考えてほしい箇所にチェックを入れておけばより効果的!

※冊子はホームページからもダウンロードできます。また、追加発送も受け付けております(ただし、数に限りがあります)。詳しくは巻末をご覧ください。

## コーナーごとにこんな使い方もできます

### 第1特集

▶2ページ~

◎園長先生が園運営の参考資料として活用されるのはもちろんのこと、園内の保育者間で回覧したり、園内研修や職員会議の資料としてお役立てください。特に重要部分にはアンダーラインを引いたり、イラストや図解で説明したりしています。その部分を重点的に共有すれば短い時間でも効果的に情報の共有や研修を行えます。

### データから見る幼児教育

▶12ページ~

◎園内研修などで、子育ての実態や保護者の意識を把握するための参考や、保護者会や園だよりの情報発信の材料としてもお役立てください。

### 第2特集

▶17ページ~

◎まずは指導的な立場にある先生がご覧ください。また、この資料をもとに、園内で職場を活性化するアイデアを募り、自園に合った方法を考えることもよいでしょう。記事のアイデアを実践していただくことや、自園の取り組みにさらに磨きをかけることにもおすすめです。

## 全国の 園長先生から 寄せられたご感想



- 現場に則した事柄をとり上げられ、重要ポイントにアンダーラインがあってわかりやすい。この冊子を活用して、職員間の専門性の向上とコミュニケーションを図りたいと思います。
- 「現場のみなさんへ」に大変勇気づけられ、がんばろう!!という気持ちになった。
- 保護者の気持ちがデータを通してよく理解できました。担任の保育士だけでなく、全職員に研修していきたいと思いました。
- 本誌に掲載されたデータを基にすることで、保護者に対して話をする際、より自信が持てるようになりました。
- 保護者、とくに母親の意識が具体的な数値で表されていて、よく理解できます。園からのサポートを考えるうえで参考になっています。

本誌は  
無料です

## ベネッセ次世代育成研究所の発刊物は、 ご希望に合わせて園へお届けします

※ただし、複数冊をご希望の場合は、岡山県からの宅配料がかかる場合がございますので、予めご了承ください。

お手続き方法

ベネッセ次世代育成研究所ホームページ、もしくは、お電話でお申し込みください。通常はお手続き完了から**1週間~10日程度**でお届けします。

### ホームページ

インターネットで検索してください。▶▶▶ <http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/>

ベネッセ次世代育成研究所

◎本誌はもちろん、乳幼児の子育てに関する調査や、幼稚園長・保育所長を対象とした調査の報告書など、ベネッセ次世代育成研究所の発刊物のお申し込みと閲覧(PDFファイルのダウンロード)が可能です。お急ぎの場合は、インターネットのご利用が便利です。



### お電話

**0120-933-964** 通話料無料

受付時間◎10:00~17:00(日曜・祝日は除く)  
※番号をよくお確かめのうえ、おかけください。  
※携帯電話・PHSからもご利用できます。  
※上記番号に接続できない通信機器・回線の場合は086-214-6337へおかけください(ただし通話料がかかります)。

お申し込みの際、**必ず、下記の内容をお知らせいただきますようお願いいたします。**

- ①お届け先の住所・ご所属・お名前
- ②お届け先の電話番号
- ③ご希望の冊子名(例:●●●●年●号とお知らせください)
- ④ご希望の冊数
- ⑤冊子を知ったきっかけ
- ⑥ご希望の理由(活用方法など)

**ご注意事項** ・ご記入いただいた内容に不備がある場合は、送付することができませんのでご了承ください。  
・報告書の在庫数には限りがあるため、送付を致しかねる場合、または、送付までにお時間をいただく場合があります。

## 発刊物のご紹介



### これからの幼児教育

※2011年春号までの名称は「これからの幼児教育を考える」

2011年 春号  
特集

園の遊びがもたらす  
幼児期の学びの芽生え

A4判 24ページ

### ◎主な記事の内容

- 2010年秋号 特集 **特別なニーズをもつ子に寄り添う保育**
- 夏号 特集 **家庭と連携した食育活動のあり方**
- 春号 特集 **保護者の成長を促す園の支援**
- 2009年秋号 特集 **保育者の資質を高める園内研修**
- 夏号 特集 **幼保一体化と新しい幼児教育**
- 春号 特集 **幼小連携に向けて現場が取り組むべきこと**
- 2008年秋号 特集 **幼稚園教育要領改訂を日々の保育にどう生かす?**
- 夏号 特集 **幼稚園教育要領改訂のポイント**

### ◎その他、幼児教育・保育に関する発刊物



第1回  
幼児教育・保育についての  
基本調査報告書  
(幼稚園編・保育所編)

◎全国の幼稚園・保育所を対象に、幼児教育・保育の実情と課題を調査から明らかにしました。

B5判 160ページ



幼児の遊びにみられる  
学びの芽

◎4~5歳児の遊びの事例を59サンプル収集し、遊びに含まれる学びの可能性や保育者のかかわりを分析しました。

A4判 72ページ



保育所での  
子どもの発達と  
保育のポイント

◎0歳から就学前までの子どもの成長発達と保育者のかかわりや、幼児の言動の意味と援助のポイントをまとめました。

A4判 112ページ

### 編集後記

大豆生田先生のお話で印象的だったのは「園はブラックボックス」という言葉。4歳の息子の保護者としても、先生方が精一杯、子どものために保育をされていることはすごく伝わってきます。それに加えて、どのような気持ちやねらいで保育をしているか、発信してもらえると親としても親近感がわき、保育内容にも興味を持てると思いました。(橋村)

「これからの幼児教育」2011夏号 2011年5月20日発行

発行人 新井 健一  
編集協力 (有)ベンダコ  
後藤 憲子 二宮 良太  
発行所 (株)ベネッセコーポレーション  
〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1  
新宿三井ビルディング  
企画・制作 ベネッセ次世代育成研究所  
印刷・製本 共立印刷株式会社  
撮影協力 ヤマガチイック  
イラスト協力 アサマリカ

次号予告

2011 Autumn 秋

これからの幼児教育

次号は**2011年9月下旬**発行(予定)  
年3回の発行(予定)です